

# 「ICSとFintechがもたらす保険業の未来」

## OLIS-明治大学保険フォーラム

2018年9月5日

京都大学経営管理大学院特命教授

河合 美宏



# 國際資本基準 (ICS)

---

# はじめに

---

- 日本の保険市場への影響
- スケジュール
- 最終的な目標
- Version 1.0
- Version 2.0
- Version 2.0の課題
- 主なポイント

# ICS 日本の保険市場への影響

---

- 金融庁はICSの策定作業に積極的に参加している
- ICSは数年以内に日本に導入される見通し

# ICS スケジュール

---

- ICSの強制適用を2013年にIAISで合意
- 基礎的必要資本(BCR) は2014年に策定完了
- 高い損失吸収能力(HLA) は2015年に策定完了
- 国際資本基準(ICS)
  - Version 1.0 – 2017年に導入
  - Version 2.0 – 2019年に導入予定
  - Version 2.0 モニタリングフェーズ – 2020年から
  - Version 2.0 本格導入 – 2025年から

# ICS 最終的な目標

---

- 単一のICS
- 国・地域によらず実質的に同一の結果が得られることを達成する

# ICS Version 1.0

---

- 拡大フィールドテストのためのICS Version 1.0を2017年7月から実施
- 選択肢の絞り込み
- 大部分のIAIGが参加

# ICS Version 2.0

---

- 国際的なグループベースの最低資本基準
- 単一の割引率によるアプローチを用いた市場調整評価(MAV)は必須報告
- 標準的手法に基づく必要資本
  - ファクターベースアプローチまたはストレスアプローチに基づくリスクチャージ
  - タイムホライズン1年、99.5% VaRを目標水準とする
- 資本の適格性についての基準を絞り込み
  - 2つのTier(Tier IおよびTier II)によるアプローチ



# ICS Version 2.0

---

- 追加報告: GAAP修正評価(GAAP+)および内部モデルベースの必要資本計算
- 2つのフェーズで段階的に導入
  - モニタリング: 2020年-2024年
  - 導入: 2025年から
- 米国提案による合算法の検討

# ICS Version2.0の課題：評価方法

---

- ICS参照値としての単一割引率によるMAV
- 割引率は基準の統一化において重要
- MAVの割引率ではベーススイールドカーブを調整して人工的なボラティリティを除外する
- 負債割引率には3バケットアプローチを適用
- 3つのバケットの違い：保険商品ごとのALMの適用度合いの違い
- MAVとGAAP+の統一化が課題

# ICS Version2.0の課題

---

- 米国の合算法が、ICSのアプローチと結果において同等とみなせる必要がある
- ComFrameへの統合
- 内部モデルに基づく必要資本の取扱い

# 重要なポイント

---

- ICS Version 2.0は2019年中に策定される
- 既存の資本規制の枠組みを補完するグループ連結ベースの資本規制基準
- 監督上の共通言語を作り出すグローバルなベストソリューション

FINTECH

---

# はじめに

---

- FinTechの主な特徴は？
- なぜ監督当局が注目する必要があるのか？
- 監督当局は何に注意すべきか？
- 監督当局はどのように対応をすべきか？
- 保険会社のリスク管理のあり方は？

# なぜ監督当局が注目する必要があるのか？

---

目覚ましい機会を作り出す可能性がある

新しいタイプのリスクを生み出す

重大なダメージを引き起こす可能性もある

# 監督当局は何に注意すべきか？

---

オペレーショナルリスク

データ保護とデータの利用法

消費者保護



# 監督当局はどのように対応をすべきか？

---

グローバルなアプローチ

複数セクターにまたがるアプローチ

先見的でタイムリーなアプローチ

# 保険会社のリスク管理のあり方は？

---

## Cybersecurityに関するIAISアプリケーション文書

- 1.戦略と枠組みの作成
  - 2.統治の確立
  - 3.リスクの把握とリスク制御方法の確立
  - 4.モニタリングの実施
  - 5.リスクが顕在化した場合の対応方法の確立
  - 6.回復と再発防止
  - 7.情報の共有
-

# 最後に

---

